

奄美パークだより

- ◆お知らせ
- ◆奄美の郷企画事業
- ◆田中一村記念美術館企画事業
- ◆わきや島自慢(知名町)
- ◆美術館常設展示
- ◆奄美パーク応援隊



いよいよ今年!

皆既日食 in あまみ

2009.7.22

奄美パークニュース

画像①



特別展示室

特別展示室が完成しました！



画像②



画像③

奄美パーク田中一村記念美術館は、所蔵している作品や大型作品が増えたため、鹿児島県の「魅力ある観光地づくり事業」の一環として「特別展示室」（画像①）を増築しました。

平成20年12月25日の「完成記念式典」では県議会議長や奄美市長をはじめとする関係者の来賓をいただき、テープカットが行われました。続いて大河ドラマ「篤姫」の音楽を担当した吉俣良さんが出演し、ピアノ演奏で式典に華を添えました。その後、奄美の郷イベント広場において、「完成記念ライブステージ」が行われ、吉俣良さんのピアノと中村瑞希さんのシマ唄、そして宮崎園長、前村学芸専門員を交えて吉俣さんとのトークショーがありました。

特別展示室手前の回廊の壁（画像②）は、共生協働の一環として平成20年6月に開催された「親子で日干しレンガを作ろう！」において、奄美の土3種を使い、砂をまぜて6色に彩られた日干しレンガで飾られています。またその奥には、沖永良部島出身の彫刻家「重村 三雄」さんに寄贈していただいた代表作「いぶし銀の世界」（画像③）を展示しています。

奄美パークの観覧料変更のお知らせ

奄美パークは、田中一村記念美術館の特別展示室の増築に伴って、平成21年4月1日から観覧料が変更になります。奄美の郷のみの場合は現行のままです。

個人様の場合！

大人	旧	新
共通券	400円	600円
美術館のみ	200円	500円
高校・大学生	旧	新
共通券	280円	400円
美術館のみ	140円	350円
小学・中学生	旧	新
共通券	200円	300円
美術館のみ	100円	250円

団体様(20名以上)の場合！

大人	旧	新
共通券	320円	480円
美術館のみ	160円	400円
高校・大学生	旧	新
共通券	220円	320円
美術館のみ	110円	280円
小学・中学生	旧	新
共通券	160円	240円
美術館のみ	80円	200円



けんむんクイズラリー

平成20年5月3日(土)

平成20年2月に行った「親子で楽しむシマユムタ」で子供たちが描いてくれた「けんむんの絵」の裏にクイズを書いたボードを奄美パーク内12カ所に配置し、「けんむんの絵」を探してクイズに答えるというクイズラリーを行った。参加者には「けんむんバッジ」を渡し有料ゾーンの通行証とした。

クイズの内容は奄美パークの展示物に関するもので、参加者たちは展示物をよく観察してクイズに答えていた。解答用紙の回収はしなかったが参加者に聞くとほぼ全問正解であった。



平成20年8月3日(日)

今年5月のゴールデンウィークに行って好評であった「けんむんクイズラリー」を夏休み企画としてクイズの内容を替えて行った。けんむんが出題するボードを奄美パーク内15カ所に置き、地図を参考にけんむんを探してクイズに答えてもらった。参加してくれた子供全員に「けんむんバッジ」を渡し、有料ゾーンの通行証とした。

クイズの内容は奄美パークの展示物に関するもので、参加者たちは展示物をよく観察してクイズに答えていた。夏休みということもあり家族連れの参加者が多く、親子で楽しむ姿が見られた。



あまみっ子フェスタ

平成20年5月4日(日)

アマンディー太鼓(奄美市立節田小学校)のオープニングで始まり、番台家 謝謝(バンダイヤシェイシェイ)さんの大道芸(お客さんも参加)で会場は笑いの渦に包まれた。

その後、ねんど遊び(県立大島養護学校 海江田教諭)や手作りで楽しむ昔あしび(奄美手熟師会)、広場で遊ぶ(奄美市レクリエーション協会)などで親子連れが楽しんだ。

最後に、あそびうたサークル「ぱすてる」によるうたあそびでは、会場の親子がゲームに参加し大いに楽しんでいた。



奄美パークわらベシマ唄大会

平成20年5月5日(月)

奄美の将来を担う子供(あまみっ子)たちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともにその技法を学び、シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。

オープニングには審査対象外だが参加してくれた保育園児3名が華を添えてくれた。

小学校低学年の部に14名、小学校高学年の部に21名、中学生の部に8名が参加し、それぞれ優勝を目指し、師から学んでいるシマ唄を熱唱してくれた。

表彰式では、部門ごとの優勝・準優勝・第3位の受賞者に、宮崎園長から賞状と記念品が授与され、最後に審査員やゲストと一緒に記念写真を撮影した。

参加者の保護者からは「とても良いイベントですね。来年も是非参加させてください。」と嬉しい声をいただいた。





奄美の郷ライブステージ

平成20年5月18日(日)

昨年に引き続き、「島んちゅ会」を筆頭に「シマ唄・さんしんグループ」、「島んちゅ会・ん？あなんだろが！」「島んちゅ太鼓」による「でい、まーじんま！（さあ、一緒に！）」第3弾として、シマ唄、踊り、さんしん合奏に加え、ハーモニカとさんしんのコラボレーションや代表の福山さんが手作りした牛も登場し、観客を大いに楽しませた。



「ネリヤカナヤフェスタ」オープニングイベント

平成20年6月22日(日)

勇壮な道の島太鼓のオープニングで始まり、華やかなフラカオスタジオによるフラダンスで常夏の海を連想させ、さざ波バンド（奄美市立伊津部小学校）による踊りや力強い演奏で会場を盛り上げたほか、築地俊造さんによるトークを交えたシマ唄ライブショーで来場者を楽しませた。

期間中の展示では「板垣雄弼海中世界写真展」及びウェイクボードの機材展示や写真での紹介、DVD放映や水中映像のビデオ放映で来場者の目を楽しませた。

板垣雄弼海中世界写真展では、珊瑚や魚など色鮮やかな海の生き物の写真とともに、赤土汚染や珊瑚の白化現象など海中環境の悪化をとらえた作品110点を展示した。



「ネリヤカナヤフェスタ」期間中のイベント ウェイクボードデモ & トークショー

平成20年7月13日(日)

日本ウェイクボード協会公認プロ宮崎綾子さんと飯田道恵プロによるデモンストレーションを龍郷町番屋漁港前で行い、普段見ることのできないプロウェイクボーダーのパフォーマンスを間近で見ることができ、会場に来ていた観客を楽しませていた。

奄美の郷イベント広場で行われたトークショーでは、2人がウェイクボードを始めたきっかけ、トリック（技）の解説やポイントの説明を実演を交えて分かりやすく説明し、ウェイクボードを知らない人にも好評で来場者は楽しんでた。





奄美の郷ライブステージ

平成20年8月9日(土)

今年で4回目となる龍郷町島唄保存会によるライブステージを開催した。

今回は「島唄の生れジマを訪ねて」と題し、島唄の生まれたいきさつについて同保存会が「こうではないだろうか?」という考察を語り、そして唄うというスタイルで行われた。

また、前回好評であった「行きゅんにゃ加那」の掛け合いが今回も行われ、来場者と出演者が交互に唄い合い、素晴らしい舞台となった。

そして、島唄と同様にハワイの昔からの伝統であるフラダンスを織り交ぜ、伝統文化の良い交流・披露の場となった。



夏休み親子工作教室 「ゆびハブをつくろう!」

平成20年8月10日(日)

地元の素材であるアダンの葉を材料に、昔から親しまれている食いついたら離れない不思議なおもちゃ「ゆびハブ」を作った。

小中学生とその親を対象にしたが、小学校低学年には難しかったようで最初はとまどっていた。だが、しばらくすると年長の兄弟や保護者の作る様子を見ながら一生懸命作っていた。

参加した子供たちは、完成したゆびハブで楽しそうに遊んでいた。



奄美の郷ライブステージ

平成20年9月13日(土)

「奄美芸能いきいき倶楽部」と「島唄研究会」の方々が、奄美大島・喜界島・徳之島から出演した。

小学校3年生から80歳を超えるベテラン唄者までが集い、奄美パークであまり聞くことのない「朝別れ節」「側屋戸節」「行きよより節」「飯米取り節」「国直よね姉節」も唄われた。

また、今年8月に東京で開催された日本民謡協会主催「第10回民謡民舞少年少女全国大会 小学生高学年の部」において「塩道長浜節」を唄い、87人の出場者の中から優勝した住姫乃さん(小学校6年生)も出演し、日本一の唄声を会場一杯に響かせた。

最後の六調では、来場者らが舞台前や客席で楽しく踊り、イベントを締めくくった。





文化講演会

平成20年10月13日(月)

2009年7月22日に奄美で皆既日食が見られることから、皆既日食についての知識を深めていただくために鹿児島県立博物館学芸主事の前田利久氏をお迎えして「2009皆既日食奄美で何が起ころ？」と題して講演を行い、また、2009皆既日食奄美市実行委員会の各専門委員長を交えての討論会も宮崎緑園長の進行で行った。

会場から多数質問等があり、今後奄美で皆既日食を迎えるにあたりいろいろな検討課題も見つかり、とても有意義な討論会であった。

講演会と討論会の間に、徳之島の東三彦氏による島口漫談を行い、奄美と徳之島の方言の違いで所々通じない部分もあったが、会場の多くの方が笑いながら楽しんでた。



奄美の郷ライブステージ

平成20年10月25日(土)

琉球舞踊に「玉城流孝の会 山元孝子琉舞道場」、シマ唄に「築地俊造」さん、和太鼓に「開運太鼓」と幼稚園児からベテランまでの総勢30名以上が出演した。

オープニングは琉球舞踊の代表的な踊りで「晴れがましい舞台で踊る喜び」を表現した「四ツ竹」が披露され、艶やかな紅型衣装やかすり模様の伝統的な衣装に身をつつんだ世界で観客を魅了した。

シマ唄には、学術・芸術などの各分野で郷土の発展に貢献した方を顕彰する「第59回 南日本文化賞」において民俗芸能部門の受賞が決まった築地俊造さんが出演し、その熟達したシマ唄とその背景を楽しいトークで披露し、客席は笑いでつまれた。

和太鼓には、昨年結成された「開運太鼓」が宇検村から出演した。村外での出演は今回が初めてであったが、その完成度は高く、クラシック音楽を盛り込んだ曲を含め、「うかれけんむん」など3曲が披露され、観客は「厄を祓い福を呼ぶ」という太鼓の響きに魅入っていた。

最後は、山元孝子琉舞道場が、島の人なら誰でも歌える「島のブルース」に奄美伝統の八月踊り「サンダマケマケ」を採り入れた創作踊りで会場狭しと踊り、ステージを締めくくった。



奄美の郷ミニライブ

平成20年11月3日(月)

第4回新緑～紅葉スケッチコンクール及び第7回奄美を描く美術展の表彰式終了後「奄美の郷ミニライブ」を開催した。

徳之島の天城町出身の禎一馬さんが全国ツアーで奄美を訪れる日と上記表彰式と同じということで、来園されたお客様に楽しんでもらうために企画した。

「ユイの島 徳之島」「おぼらだれん」「ワイド節」などを披露し、会場から手拍子や口笛が鳴り、ミュージシャンと来園者が一体となり楽しんだ。





大炊御門エデン「奄美 神々の大天底展」

開催期間 平成20年3月23日(日)～平成20年4月7日(月)

龍郷町出身の美術家、大炊御門エデンさんの個展「奄美 神々の大天底展」が田中一村記念美術館企画展示室で開催された。大炊御門さんは約30年にわたりフランスで芸術活動が続けた後、3年前に帰郷し、身近な素材を使った創作活動に取り組んでいる。展示作品は、火、水、土をコンセプトにした巨大オブジェで、いずれも地元のサネン紙をティーチギで染め、さまざまな色や形を組み合わせた3つの作品であった。初日のギャラリートークでは熱心な美術ファンらが訪れ、独特な世界を楽しんでいる様子だった。



日干しレンガづくり

平成20年6月29日(日)

田中一村記念美術館の増築工事に伴い、回廊壁面に使う日干しレンガの一部を「共生・協働」の一環として親子でつくるイベントを行った。

奄美大島本島内の各地から、27家族97名が参加し、親子一緒に型枠に土を詰め、コテを使って丁寧に仕上げている。

その後、子ども達には土を使って自由に好きなものを作ってもらい、シーサーなどみんな思い思いのものを楽しそうに作っていた。



日仏交流シンポジウム

平成20年7月20日(日)

日仏交流150年、田中一村生誕100年を記念して「日仏交流シンポジウム」を開催した。まず最初に、パリ日本文化会館初代館長の磯村尚徳氏が、日仏文化が相互に与えた影響などについて記念講演をされた。

シンポジウムでは宮崎緑館長がコーディネーターを務め、パネラーとしてフランス人作家と日本人作家、コメンテーターとして磯村氏が登壇した。フランスのパネリストたちは、一村の絵画について「奄美の自然と文化が一村の素晴らしい制作活動に一層拍車を掛けたような素晴らしい作品を残している。」といった感想を語った。

また、シャンソンコンサートやフランス人作家によるシマ唄に合わせた即興絵画制作なども披露された。



夏休み親子スケッチ大会

平成20年7月27日(日)

夏休み特別企画として7月と8月の2回、親子スケッチ大会を企画した。7月の今回は、大島高校の小牟禮教諭を講師として招いた。

午前10時からレクチャールームで絵を描くときの注意事項やポイントなどを説明し、その後、それぞれ親子で奄美パーク内の好きな場所でスケッチしてもらった。

作品完成後は、レクチャールームに集合し、小牟禮教諭が仕上がった児童の作品を並べ、1点ずつ作品の素晴らしいところを引き出し説明した。児童の中には、8月にもう一度挑戦したいという子もいた。

平成20年8月24日(日)

先月に続き夏休み企画として親子スケッチ大会を行った。今回は、講師として赤徳小中学校の下脇雅浩先生が指導した。





日仏交流美術展

開催期間 平成20年7月20日(日)
～平成20年8月10日(日)

田中一村生誕100年、日仏交流150年を記念して日仏交流美術展「奄美、ボンジュール ドゥ フランス」を田中一村記念美術館企画展示室で開催した。企画展示室には、フランス人作家11名、日本人作家35名による合計64点の作品が展示された。国際展が開かれるのは、今回が初めてである。

フランス人作家による「アマミ」を題材にしたオブジェなども展示されるなどユニークな作品で会場は賑わい、「日本とフランスの素晴らしい作品が奄美で鑑賞できて良かったです。」と喜ばれる方もいた。



「シマに生きて」 管洋志写真展

開催期間 平成20年8月13日(水)
～平成20年9月5日(金)

アジアや奄美の人、風景にこだわりながら撮影活動をしている写真家・管洋志氏の「シマに生きて」写真展を開催した。管氏は1987年に第6回土門拳賞を受賞し、これまで多くの展覧会を開催したり、写真集も出している。また、奄美市美展の審査員を務めるなど奄美とは深い関わりがあり、この展覧会が実現した。

今回の写真展では、奄美とネパールの写真約40点を展示した。初日にはフォトレクチャーを行い、管氏が「外から見た奄美の魅力」を語った。初日から大勢の親子連れや写真愛好家が訪れて賑わった。



「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパントゥデイ vol.9」

開催期間 平成20年9月7日(日)
～平成20年9月28日(日)

ヨーロッパの写真家3人によって撮影された鹿児島県の風景や場面を鑑賞できる「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパントゥデイvol.9」を開催した。当館では、奄美大島の撮影を担当したオランダ出身の作家クニー・ヤンセン氏の写真を中心に32点の作品を展示した。

初日にはオープニングイベントとして、企画展示室で「ワークショップ」や「ギャラリートーク」が行われた。また、奄美の郷イベント広場では、オランダ領事の挨拶の後、小中学生による踊りや歌が披露され、オランダ・東京・奄美在住の写真家によるシンポジウムも行われた。





創作体験教室（風景画）

平成20年10月5日(日)

二科会会員で鹿児島県美術協会会員の祝迫正豊氏を講師に招き、創作体験教室（風景画）を開催した。午前9時30分からレクチャールームにおいて、事前指導として実際に作品を描きながら、絵を描くときの注意事項やポイントなどの説明を受けた後、それぞれ園内のお気に入りの場所でスケッチしてもらい、作品完成後は、一村館の企画展示室で講評会を行い、各々の作品へのアドバイスをいただいた。



第7回奄美を描く美術展

開催期間 平成20年11月3日(月)～平成20年11月24日(月)

奄美の風物をテーマとし、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、地域の風物や文化に接する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的として開催した。

今年もさらに買い上げが1点増え、上位6作品を「買い上げ賞」として賞金を出すこととし、全国から作品を募集した。出品数は137点と前回は下回ったが、作品内容は格段に充実していた。

審査委員長の大津英敏氏（日本芸術院会員・多摩美術大学教授・独立美術協会会員）からは「全体の印象として、しっかりと書き込んだ作品が多かった。奄美の自然を主題にした作品が多く、奄美への思いが伝わってきて、展覧会の趣旨を生かしている。入賞した作品については、あか抜けた作品が多く、どこの展覧会に出しても通用するレベルである。今後は画面の構成をより工夫した作品を求めたい。」という総評をいただいた。



「第4回新緑～紅葉スケッチコンクール」 及び「第7回奄美を描く美術展」授賞式

平成20年11月3日(月)

奄美の自然及び奄美パークの素晴らしさを認識してもらい、美術への理解や創作への関心を広げ、来館者の底辺拡大を目的とした「第4回新緑～紅葉スケッチコンクール」と奄美の風物を題材に全国から公募した「第7回奄美を描く美術展」の授賞式を行った。

まず、「第4回新緑～紅葉スケッチコンクール」の表彰を行い、「むるむるきよら大賞」を受賞した川田和紀さんをはじめ、19名（うち欠席2名）に宮崎館長が賞状を読み上げ、楯と記念品を授与した。

引き続き、「奄美を描く美術展」の表彰を行い、大賞を受賞した小牟禮雄一氏をはじめ入賞された17名に、各協賛企業の代表者などから賞状と楯が授与された。

今回は、「買い上げ賞」が前回より1点増え、上位6作品に賞金が授与された。



クラゴウ ジッキョヌホー(暗川)

知名町

奄美諸島の南西部、沖永良部島に位置する。全島サンゴを起源とする石灰岩層から成り、地中を網の目のように交錯する鍾乳洞が水源。ミネラル分を豊富に含んだ冷涼な清水は日量 2,000 トンに達する。集落唯一の水源として大切にされている。

全島隆起珊瑚礁のため水利が極めて乏しい沖永良部島では、各所に点在する湧水を「命の水」として崇め大切に守り継いできた。集落も湧水を中心に形成発展してきた。

「ジッキョヌホー」もその一つ。古来、集落民の飲用・生活・かんがい・防火等貴重な水源として利用されてきた。終日、人々の往来で賑わい、コミュニティー・情報の受発信地等、地域の中核機能の役割をも担っていた。

そのため集落は、他の事業に優先して水路の補修・ルール・マナーなど「ホー」の管理を徹底してきた。

水道の普及や水田転換等で利用形態は大きく変わった今も、かつての主婦の洗濯や野菜洗い、子ども達の水遊び、毎月欠かさない清掃等、注時のままに今日に受け継がれている。

先人の営々として築いてきた歴史・伝統を敬い継承し、昔ながらの変わらぬ自然の恵みや景観に感謝、いつまでも後世へ伝えたい。こうした想いから、平成3年に「ホーマツリ」をスタートさせた。壮年団を中心に字の人々による手づくりのまつりである。盛夏の7月のある夕、清澄な湧水をステージに、集落老若男女がそろい、伝統芸能が披露されるこの日は字の一大祭典とともに絶好の納涼の場として盛況を呈する。

字の人々の変わらぬ崇拜のもとに集落のシンボルとして「ジッキョヌホー」は存在する。



『一村の描いた千葉寺の秋展』

■展示期間：平成20年11月20日（木）～平成21年3月17日（火）

田中一村は50歳の時に奄美に移り住み、紬染色工として生計をたて、蓄えができたなら絵を描くという生活を繰り返し、旧名瀬市有屋の借家で、誰にも看取られず69歳の生涯を終えた。今回、千葉時代の秋を描いた作品をできるだけ多く集めてみました。

また、一村の代表作である「白い花」と「秋晴」も同時展示します。

※ 作品名の表記を変更したものが 있습니다。（〔 〕 内は旧作品名）

常設展示室 1

幼年期～青年期 明治41年（1908）～昭和13年（1938）

◆大人顔負けの天才的な画才を現した12歳から19歳にかけての色紙。

画 題	種 類	制 作 年 代
白梅図〔白梅〕	(色紙)	大正 6 年 (1917年 9 歳)
天 下 第 一 春	(色紙)	大正 1 0 年 (1921年 1 3 歳)
花菖蒲図〔花菖蒲〕	(色紙)	大正 1 4 年 (1925年 1 7 歳)
蔬菜図〔野菜図〕	(色紙)	昭和 2 年 (1927年 1 9 歳)

◆米邨と名乗っていた頃の南画の作品。多くの作品が残っている。

画 題	種 類	制 作 年 代
溪居自適〔自適溪谷〕	(軸装)	昭和 初年 (1926年 1 8 歳)
鶏頭図〔ケイトウ〕	(額装)	昭和 7 年 (1932年 2 4 歳)
秋色〔秋色③〕	(額装)	昭和 2 0 年代

◆同じ個人宅に伝来した南画。いずれも「倣」「仿」「擬」などとして南画の先人たちの名を画中に記し、〇〇風に描いたということを示している。

画 題	種 類	制 作 年 代
秋景山水図〔擬鉄斎〕〔倣鉄斎③〕	(軸装)	昭和22年頃(1947年39歳頃)
老夫観月図〔仿石濤〕〔倣石濤〕	(軸装)	昭和22年頃(1947年39歳頃)

常設展示室 2

千葉寺時代 昭和13年（1938）～昭和33年（1958）

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画 題	種 類	制 作 年 代
懸栗図〔カケス〕	(額装)	昭和 3 0 年頃 (1955年 47歳頃)
牛が往く野〔千葉寺…〕	(額装)	昭和 2 0 年代
千葉寺雪の日	(額装)	昭和 2 0 年代

九州・四国の旅 昭和30年（1955）

◆旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのかきかけともなった。

画 題	種 類	制 作 年 代
ハ マ ユ ウ と ヒ ギ リ	(色紙)	昭和 3 0 年 (1955年 47歳)
室 戸 岬	(色紙)	昭和 3 0 年 (1955年 47歳)
ずしの花〔高千穂①〕	(色紙)	昭和 3 0 年 (1955年 47歳)
平 潮	(色紙)	昭和 3 0 年 (1955年 47歳)

常設展示室 3

◆奄美を訪れて1年後に描かれた作品。千葉時代を思い出して描いたか。

画 題	種 類	制 作 年 代
竹にオオルリ	(額装)	昭和 3 4 年 (1959年 5 1 歳)

◆奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。大作はわずかに20点足らずしかない。

画 題	種 類	制 作 年 代
パパイヤと高倉	(額装)	昭和 3 5 年頃 (1960年 52歳頃)
奄美の杜②～サクラガツツとオオタコツタリ	(額装)	昭和 4 0 年代
ソ テ ヅ 残 照	(額装)	昭和 4 0 年代
花 と 鳥	(額装)	昭和 4 0 年代
奄美の杜⑦～ピロウ樹	(額装)	昭和 4 0 年代
奄美の杜③～ピロウとハマユウ	(額装)	昭和 4 0 年代

◆《白い花》は、昭和22年39歳の時、画号を「田中米邨」から「柳一村」に改め、第19回青龍社展に出品し入選した作品。

《秋晴》は、翌年同展覧会に、画号を「田中一村」に改めて出品。一村の思い入れとは逆に、参考として出品した《波》が入選したことで、主宰者である川端龍子と激しくぶつかり、入選を辞退したと言われている。

これ以降中央画壇での入選はなかった。

画 題	種 類	制 作 年 代
白 い 花	(屏風)	昭和22年 (1947年39歳)
秋 晴〔 秋 晴 れ 〕	(屏風)	昭和23年 (1948年40歳)

千葉寺時代 昭和13年（1938）～昭和33年（1958）

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画 題	種 類	制 作 年 代
農 村 春 景	(色紙)	昭和 1 9 年頃 (1944年 36歳頃)
軍鶏図〔シャモ〕	(色紙)	昭和 2 0 年頃 (1945年 37歳頃)
牛 車 と 農 民	(色紙)	昭和 2 0 年頃 (1945年 37歳頃)
千 葉 寺 の 秋	(色紙)	昭和 2 3 年頃 (1948年 40歳頃)

奄美の一村 昭和33年（1958）～昭和52年（1977）

◆「奄美時代」の色紙。

画 題	種 類	制 作 年 代
パパイヤのある風景	(色紙)	昭和30年代
高倉の並ぶ春景図〔高倉〕	(色紙)	昭和35年頃(1960年 52歳頃)
漁樵対問〔魚樵対問①〕	(色紙)	昭和35年 (1960年 52歳)
マダラハタとスジブダイ〔熱帯魚〕	(色紙)	昭和50年 (1975年 67歳)
ハ マ ユ ウ	(色紙)	昭和50年 (1975年 67歳)

◆名瀬大熊付近を写生し着色したもの。記録としても貴重な作品。

画 題	種 類	制 作 年 代
大 熊 風 景	(色紙)	昭和44年 (1969年 61歳)

◆道ばたで長い時間かけて写生する姿は、よく目撃されていた。

魚	④	工	③	鳥	②
軍	鶏				

◆奄美の人々とのつきあいのなかで依頼された「肖像画」。写真を基に緻密に描かれている。現在も多くの肖像画が残っている。

画 題	種 類	制 作 年 代
保夫妻肖像〔復刻肖像画〕	(額装)	昭和38年 (1963年 55歳)

◆一村自身の手による解説により《白花と赤翡翠》であることが判明した。

画 題	種 類	制 作 年 代
白花と赤翡翠〔ダチュラとアカショウビン〕	(額装)	昭和42年頃(59歳頃):複製

◆「この絵だけは誰にも譲れない、閻魔大王へのお土産なのですから・・・」と一村が語った2点。「アダンの木」は個人が所有。

画 題	種 類	制 作 年 代
ア ダ ン の 木	(額装)	昭和47・8年 (64・5歳):複製
奄美の杜⑥～クワズイモとソテツ	(額装)	昭和47・8年 (64・5歳):複製



奄美パーク応援隊

奄美パーク応援隊は地域の方々による奄美パークのボランティアサポーターで平成15年から活動しています。4つの分科会に分かれ、それぞれ得意な分野で活躍しています。

奄美や田中一村について皆さんで語り、奄美の楽しみ方をたくさんの人に伝えてみませんか？

応募資格

奄美パークまで各自で来園可能な方。(ただし、成人に限ります。)

奄美の自然、文化、または美術に興味のある方。

年2回以上活動に参加できる方。

活動内容

展示案内ガイド 奄美の郷及び田中一村記念美術館の展示の案内をします。

展示案内ガイドに関しては、養成講座を受講されることが必要となります。

手熟ガイド

奄美の三味線、シマ唄、機織りなどを実際に行いながらガイドをします。

園芸サポーター

奄美パーク園地の植栽、剪定等の作業をします。

一村サポーター

田中一村記念美術館の企画展展示作業のサポートをします。

活動期間等

活動期間

登録日から翌年3月31日まで

活動日

上記活動期間中の奄美パーク開園日で活動が可能である日。

展示案内ガイド、手熟ガイドに関しては事前に団体の予約状況をお知らせします。また、予約団体がいないなくても来園できるときにガイドをしていただくことは可能です。

登録方法

新規登録用紙に必要事項を記入のうえ、登録証用の顔写真を添えて奄美パーク事業課まで郵送またはご持参ください。(顔写真はヨコ3cm×タテ4cm程度の大きさで、顔が写っていればスナップ写真等で結構です。)

その他

■報酬・交通費等の支給はありません。

■登録された方には登録証を発行します。有料ゾーンへの入場は登録証を提示すれば無料になります。

■登録された方は、ボランティア保険に加入していただきます。手続きは事務局で一括して行いますので、保険料の個人負担と個別の手続きは不要です。

●お問い合わせ

鹿児島県

奄美パーク

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

■奄美パークホームページ <http://www.amamipark.com/>

■奄美の郷／TEL.0997-55-2333 FAX.0997-55-2612

■田中一村記念美術館／TEL.0997-55-2635 FAX.0997-55-2613

■開園時間／9:00～18:00 (7・8月は9:00～19:00)

入館は、閉園時間の30分前までです。

■休園日／毎月第1及び第3の水曜日(祝日の場合は翌日)

〈4月29日～5月5日、7月21日～8月31日、年末年始は開園〉

■施設観覧料／奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料

大人…400円、高校・大学生…280円、

小・中学生…200円、幼児(小学生未満)…無料

※上記料金は平成21年3月31日までです。翌日からの料金は2ページを参照して下さい。

奄美パーク周辺マップ

